

来年度からの飼育開始を目指して

鳥インフルエンザ感染などによるトキ全滅の危険回避を目的に、分散飼育を実施しています。既に東京都多摩動物園、石川県いしかわ動物園、鳥根県出雲市が選ばれており、新潟県内にも分散飼育の施設を作りたいとの考えに長岡市も賛同し、寺泊地域の公民館「寺泊夏戸センター」のグラウンドに施設を建設し、トキ受け入れの計画を進めています。



夏戸センター

協会が施設を整備します

敷地面積は約5000㎡、延べ床面積約1000㎡。最大111㎡のケージ6室をはじめ、ふ化室や育雛室、治療室、作業室などを建設します。整備費は最大4億円で、大部分は「中越大震災復興基金」の支援金から支出され、本年度に着工し完工の予定です。

分散飼育の資格条件

環境省では、トキの分散飼育の条件として、周辺の自然環境調査と、近縁種の飼育実績を3年以上行うことが条件となっており、多摩動物園のご協力により悠久山小動物園にてクロトキとムギワラトキが飼育され、それぞれの雛が誕生しています。

トキ分散飼育に向けて

長岡市環境部環境政策課

小林美智男

長岡市は、平成二十年十二月に国からトキ分散飼育地として指定されました。当市におけるトキ分散飼育の第一の目的は、佐渡と同一県内の市として、佐渡でのトキの飼育・繁殖事業及び野生復帰事業を支援し、トキの安定的存続に貢献することです。

また、トキの飼育・繁殖事業を通して、自然環境学習の場を提供するなど、自然環境保護の普及啓発を積極的に進めるとともに、地元の皆様や環境を考える団体等による自発的な自然環境再生活動を支援し、この取り組みを通して中越大震災から再生・復興した地域の姿を全国に情報発信していきたいと

考えています。

平成二十三年度に寺泊地域での分散飼育が開始できるよう努めてまいりますので、引き続き社団法人長岡市緑地協会をはじめ長岡地区自然環境再生推進委員会から格別の御協力をお願いいたします。



夏戸の用水路

詳しくは、協会のホームページをご覧ください。



トキの森公園



平成二十一年度 佐渡トキ研修

理事 山田 富市

「佐渡はいよいよか、住みよいか」長岡市緑地協会は、昨年十月十二・十三日に「トキの森公園視察」の研修を長岡市環境政策課小林補佐からも参加いただき鈴木理事長以下二十名で行ないました。

地球規模の環境問題が問われている昨今、環境革命潮流の象徴として「トキの野生復帰に向けて」国・県・佐渡市等さまざまな取り組みが行なわれています。

当協会も中越大震災の復興にむけて「フィールドミュージアム構想。縄文ぶな街道ものがたり」等、自然環境再生活動を行なっております。又、復興基金による「トキ分散飼育事業」が当協会を中心として進行している事もあり、実り多き研修となりました。

カーフェリーで佐渡へ渡り、午後から「トキの森公園」を視察しました。各会員もトキの資料館や観察回廊から見える飼育ゲージのトキを熱心に観察しておりました。ひきつづき移動し「野生復帰ステーション」を観察棟から見学し、「トキと共に生きる島佐渡市」を少しは実感したと思われまふ。中国の支援を受ける中、「トキ保護増殖事業」が環境省を中心として新潟県と佐渡市が積極的に協力して来ましたが、そして一昨年・昨年とトキの放鳥が実施され、佐渡はもとより本土の空でもトキが見られており、今春はいよいよ自然繁殖が期待されております。

長岡市緑地協会としても本研修を参考に「長岡市の分散飼育」が成功へ向けて着実に歩んで行ければと思っております。